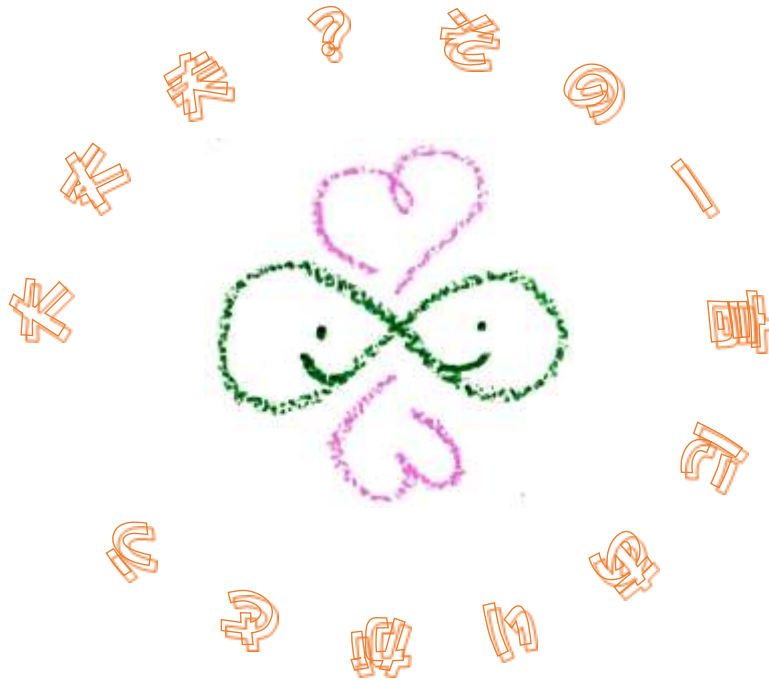


平成 28 年度

事業報告書



おわせ社協ロゴマーク
“わごころ”

社会福祉法人 尾鷲市社会福祉協議会

平成28年度

尾鷲市社会福祉協議会

理 念

尾鷲市のだれもが安心して生活できるまちづくりを
すすめていく

職員心得

- 笑顔であいさつ
- 責任ある行動
- 思いやりを持って接する

目次

I. 企画調整部門

1. 総務・福祉係 1

II. 総合相談・支援部門

1. 生活支援係 18
2. 地域包括支援センター 23
3. 紀北地域障がい者総合相談支援センター 29

III. 介護サービス部門

1. 居宅介護支援事業所 39
2. 訪問介護事業所 41
3. 訪問入浴事業所 45
4. 輪内通所介護事業所 46
5. 尾鷲通所介護事業所 48

IV. 輪内高齢者サービスセンター

1. 輪内高齢者サービスセンター 50

I. 企画調整部門

1. 総務・福祉係 (旧総務係)

1. 会務の運営

適正な法人運営と円滑な事業推進を図るため、次のとおり役員会を開催した。

(1) 理事会

第1回 平成28年5月26日 出席者 11名

- 平成27年度事業報告書(案)について
- 平成27年度決算報告書(案)について
- 平成28年度第1回補正予算書(案)について
- 評議員の一部改選(案)について

報告 ・ 旅費規程の一部改定について

第2回 平成28年12月15日 出席者 9名

- 定款の変更について(案)について
- 評議員の一部改選(案)について

追加議案

- 評議員選任・解任委員会規程の制定について
- 評議員選任・解任委員の選任について

報告 ・ 就業規則、嘱託職員就業規則、日額時給職員の就業規則の一部変更について

・ 育児休業・育児短時間勤務規則、介護休業・介護短時間勤務規則の一部変更について

第3回 平成29年3月23日 出席者 6名

- 平成29年度事業計画書(案)について
- 平成29年度当初予算書(案)について
- 平成28年度第2回補正予算書(案)について

報告 ・ 評議員選任者名簿について

・ 決算 理事会について

(2) 評議員会

第1回 平成28年5月26日 出席者29名

- 平成27年度事業報告書(案)について
- 平成27年度決算報告書(案)について
- 平成28年度第1回補正予算書(案)について
- 理事の一部改選(案)について

報告 ・ 旅費規程の一部改正について

第2回 平成28年12月15日 出席者23名

- 定款の変更について(案)について

報告 ・ 評議員選任・解任委員会規程の制定について
・ 評議員選任・解任委員の選任について
・ 就業規則、嘱託職員就業規則、日額時給職員の就業規則の一部変更について
・ 育児休業・育児短時間勤務規則、介護休業・介護短時間勤務規則の一部変更について

第3回 平成29年3月23日 出席者28名

- 平成29年度事業計画書(案)について
- 平成29年度当初予算書(案)について
- 平成28年度第2回補正予算書(案)について

報告 ・ 評議員選任者名簿について

(3) 監事監査

- ① 平成28年5月6・9日 監事2名
・ 平成27年度の事業及び決算についての監査
- ② 平成29年2月1日 監事2名
・ 平成28年度4月～9月 定期会計監査

(4) その他の監査

- ① 平成 28 年 12 月 19 日社会福祉法人指導監査(尾鷲市福祉保健課)
- ② 平成 29 年 1 月 13 日財政援助団体等監査 (尾鷲市監査事務局)

2. 事務局体制の強化

(1) 職員体制の配置

平成 29 年度事業強化に備え、採用試験・登用試験を行った。

- 採用者数 正規職員 3 名、嘱託職員 2 名
 - 登用者数 正規職員 2 名、嘱託職員 1 名
- (参考:平成 28 年度退職者 正規職員 3 名、嘱託職員 1 名)
- ・適正な人事異動の実施

(2) 福祉関係資格取得奨励及び各種研修会への参加

① 資格取得の状況(新規)

介護福祉士 3 名、社会福祉主事 1 名

② 研修会への参加と開催

県社協の実施する役職員セミナーや専門、職種別研修会に積極的に参加した。社会福祉従事者としての自覚、使命感を育て問題解決能

力

を養うための自己啓発の促進として、下記の経験や役職に応じた体系的な研修に参加した。

- 新任職員研修 I 1 名
- 中堅職員研修 II 1 名
- " III 2 名

(3) 活動基盤の改善・充実

- ① 定款の一部変更
- ② 職員給与規程の改正

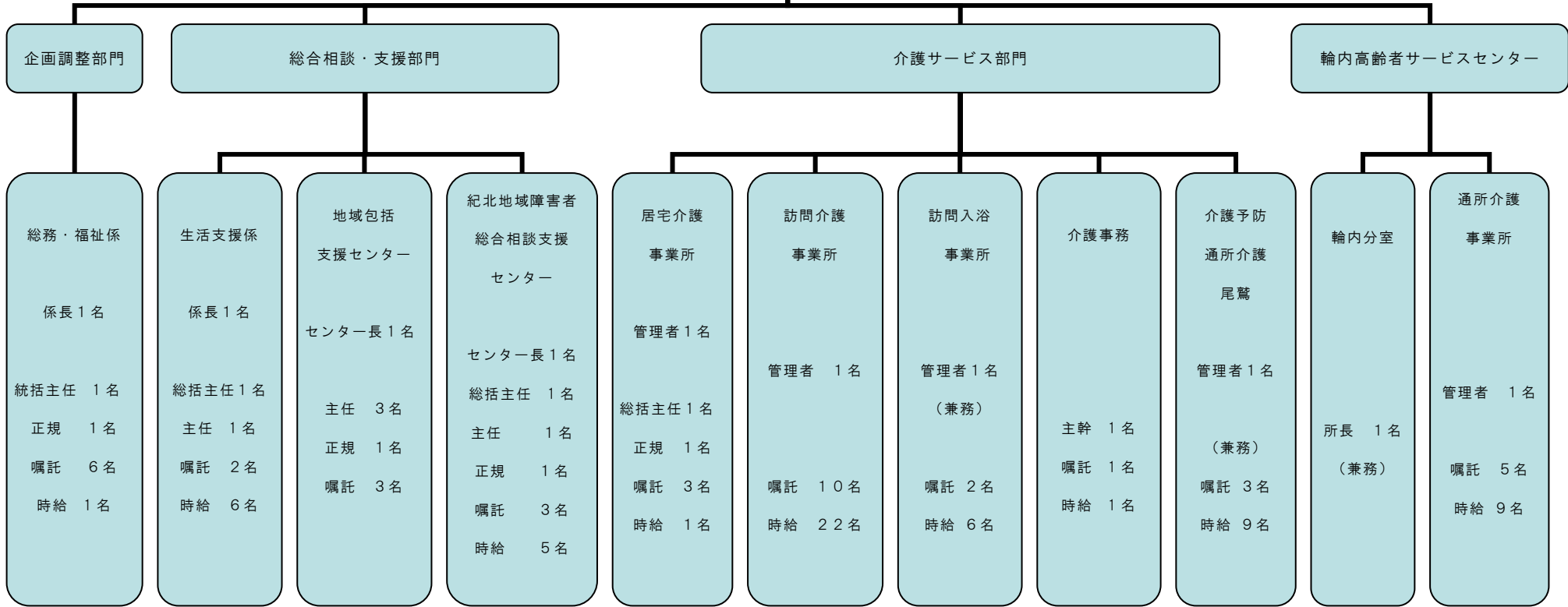
平成28年度 尾鷲市社会福祉協議会
業務体制（平成29年3月末日現在）

会長 1名
理事 副会長 2名
常務理事 1名
理事 8名

評議員 32名

事務局

職員数 119名
(内訳)
正規職員 20名
嘱託職員 39名
時給職員 60名
〈前年度職員数124名〉



3. 地域福祉財源の確保

- (1) 補助事業・委託事業などの公的財源の確保
- (2) 自主財源の確保

① 善意銀行の運営

市民の善意により、現金物品が寄贈された。

【現金】 一般預託	17 件	787, 615 円
指定預託	1 件	27, 240 円
合 計	18 件	814, 855 円

※前年度合計 20 件 844, 237 円

【物品】 ・ 車輜 (三重県生命保険協会より寄贈)
・ 車椅子

4. 福祉団体活動支援

(1) 老人クラブ 活動の推進と支援

老人の健康、生きがいなどの福祉の向上を図るとともに社会奉仕活動への積極的な参加促進を支援した。

① 老人クラブ 連合会活動の支援

29 クラブ・会員数 1, 405 名

② 老人の社会奉仕活動への参加促進の支援

③ 高齢者友愛訪問活動への支援

④ 尾鷲市福祉保健センターを活用した各種講座の開催

10 講座 3, 636 名 (前年度 10 講座 3, 035 名)

(2) 遺族会の支援

遺族会活動の支援と尾鷲市戦没者追悼式を共催した。

尾鷲市戦没者追悼式 尾鷲市との共催

日 時：平成 28 年 5 月 29 日

場 所：尾鷲市民文化会館

参列者：250 名

5. 苦情解決事業の推進

苦情解決体制の一層の充実を図り、第三者委員をはじめ地域住民からの苦情の汲み上げるとともに、苦情に対する職員の意識を高め、サービスの質の向上に取り組んだ。

(1) 苦情解決体制の構築

苦情解決責任者の設置 事務局長
苦情受付担当者の設置 総務係長
第三者委員の設置 3名委嘱

(2) 苦情内容・苦情総数

(単位：件)

苦情の内容	平成 28 年度	前年度
ケアの内容に関わる事項	0	0
個人の嗜好・選択に関わる事項	0	0
財産管理・遺産・遺言等	0	0
制度・施策に関わる事項	0	0
その他(職員の言動・交通マナー)	1	0
本会以外への苦情等	0	0
合 計	1	0

6. 尾鷲市福祉保健センターの管理運営

福祉・保健活動の拠点として研修会や交流、市民の社会参加の場として市民が利用しやすい環境を整備し、管理運営を適切に行った。

(1) 年間利用実績

- ・延べ利用回数 3,024 回 (前年度 3,154 回)
- ・延べ利用者数 58,717 人 (前年度 62,127 人)

(2) 防火訓練の実施

内 容：避難誘導訓練、通報訓練、初期消火訓練

日 時：①平成 28 年 7 月 27 日

②平成 29 年 2 月 9 日

(3) 防災訓練の実施

尾鷲市防災訓練に合わせて、港町地区住民の避難受入訓練を行った。

日時：平成 28 年 8 月 28 日（日）

受入：11 世帯・11 名

7. マイクロバス貸し出し事業

地域福祉基金を活用し、福祉関連団体等、各種団体の活動支援を行った。

期間：平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月

利用団体：11 団体

利用回数：延べ 18 回



8. ご当地キャラクター

尾鷲社協ご当地キャラクター、尾鷲よいとこやにゃんを用いて尾鷲の観光 PR をするとともに、福祉へのイメージアップを図った。

(1) 出演

職員がスタッフとして市内外のイベントに出演した。 出演回数：30 回

(2) 貸出

着ぐるみの貸し出しを行った。 貸出回数：3 回

(3) デザイン使用

出版物等にイラストの使用を許可した。 件数：8 件

旧地域福祉係

1. 小地域福祉活動

(1) 地区福祉委員会の活動支援

① 代表者会議の開催

地区福祉委員会同士の情報交換をはじめ、新結成された「な

みき地区福祉委員会」の紹介、活動上の課題や成果などについて話し合う代表者による懇談会を開催した。

開催日：平成 28 年 8 月 26 日

場 所：尾鷲市福祉保健センター

内 容：尾鷲市地域包括支援センター・輪内プラザについての紹介、各事業紹介と意見交換、平成 27 年度地域勉強会まとめ、地区福祉活動広報誌ほか

参加者：15 名

② 視察研修の開催

三重県社会福祉協議会主催の『地域における支えあい活動セミナー』に参加した。県内市町において地域支援の活動をしている団体がそれぞれの活動内容を発表、参加者は各々に興味のある発表を聴講した。



開催日：平成 29 年 3 月 16 日

場 所：三重県総合文化センター

内 容：地域支援活動の発表聴講

参加者：各地区福祉委員 6 名

③ 地区福祉活動広報誌「地域福祉委員会だより」第 1 号発刊

地域福祉委員会の中で委員会の目的の再確認や住民への地区福祉委員会の活動を説明するために活用する。今後も不定期的に刊行していく予定。

④ 助成金の交付

地域福祉の増進を目指し、地区福祉委員会の活動継続を促進するため 18 地区に助成金を交付した。

(ア) 基本助成：1 地区 2 万円を上限に 36 万円

(イ) 活動助成：前年度募集の賛助会費の 50%として
666,500 円

(ウ) 事業助成：あったかふれあい訪問活動、高齢者ふれあいサロンなど実績に基づき 1,713,800 円

2. ボランティア・市民活動センター事業

(1) ボランティア・市民活動センターの効果的な運営

- ① 市内ボランティア・市民活動団体への情報提供
- ② コーディネーターによるボランティア相談支援
- ③ ボランティア活動保険および行事用保険加入手続きと保険料の一部を助成した。
 - ・ボランティア活動保険 加入件数 769 件
 - ・ボランティア行事用保険 18 団体、延べ 76 事業開催
- ④ ボランティアグループの活動増進のために助成した。
 - ・2 万円を上限に 12 団体 24 万円

(2) 災害ボランティアセンター事業

① 災害ボランティアセンター設置運営協定に向けた協議

尾鷲市民生委員児童委員協議会、尾鷲市自治会連合会、尾鷲市自主防災会、尾鷲市区長会をはじめ、尾鷲市関係各課を交え、大災害が発生した場合の災害ボランティアセンターの設置について協議した。

(ア) 第 3 回関係者協議 平成 28 年 6 月 8 日

内容：災害ボランティアコーディネーターの養成について

(イ) 第 4 回関係者協議 平成 28 年 12 月 22 日

内容：災害ボランティアセンター設置構想についての意見交換

尾鷲市との災害ボランティアセンター設置運営協定の締結

平成 29 年 2 月 28 日付で協定書に調印



第 4 回関係者協議



尾鷲市との設置運営協定

② 災害時の助け合いのしくみづくりのための人材育成

(ア) 災害ボランティアコーディネーター養成講座の開催

開催日：平成28年7月30日～10月11日（全5回）

修了者：19名

(イ) 災害ボランティアセンター設置運営訓練

実施日：平成28年11月27日

（尾鷲市巨大津波対処関係機関訓練）

参加者：18名（社協職員：9名 ボランティア：9名）

会 場：曾根埋立地



養成講座の様子



設置運営訓練

③ 災害ボランティアに関する啓発

(ア) 尾鷲市ちびっこ防災フェアへの出展

開催日：平成28年5月5日

会 場：県立熊野古道センター駐車場

内 容：災害時のボランティア活動について

(イ) 尾鷲中学校防災教育への出展

開催日：平成28年11月29日

会 場：尾鷲中学校

内 容：避難所における助け合いの気づき



ちびっこ防災フェア



尾鷲中学校防災教育

3. 子育て・児童福祉

(1) 子育て支援事業

各関係機関との情報共有と協働を図り、地域の子育て世代の住みやすいまちづくりを目的に実施した。

① 子育てグッズ「無料レンタル」事業

チャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッドを貸出した。

新規貸出件数：54件（前年度 64件）

② 子育てグッズ「リサイクル」事業

自宅で不要になった物品の仲介を行った。

リサイクル物品提供件数：6件（前年度 18件）

③ 児童交流室の自由解放と子育て情報の発信を行った。

④ こどもの日すこやか事業

保育園・幼稚園児に子供の日の菓子を贈呈した。

対象児童 444名（前年度 464名）

⑤ 小学校卒業記念品贈呈事業

一人親家庭の小学校卒業生に卒業記念品として図書券を贈呈した。

対象児童 21名（前年度 22名）

4. 地域ふれあい事業（高齢者）

(1) おしゃべりほのぼのサロン

高齢者の生きがいをづくり・見守り支援を目的とした高齢者サロンを当会職員とボランティアの協力で実施した。



延べ参加人数実績

（単位：人）

地区 人数	尾鷲 (第1週)	尾鷲 (第3週)	九鬼	早田	須賀利	合計
参加人数	58	68	88	84	55	353
前年度人数	77	96	87	68	50	378

(2) 高齢者ふれあいサロン・あったかふれあい訪問活動

地区福祉委員会による地域住民主体の高齢者サロンと見守りを目的とした、あったかふれあい訪問への助言と助成金の支援を実施した。

各地区の年間活動実績

(単位：回／名)

地区福祉委員会	ふれあい訪問		ふれあいサロン		世代間交流	
	回数	延べ人数	回数	延べ人数	回数	延べ人数
三木浦	4	668	2	22	3	301
賀田	1	76	1	51	—	—
矢浜	1	184	4	152	—	—
倉ノ谷	3	221	2	69	1	39
中村町	4	326	—	—	—	—
三木里	3	238	—	—	—	—
古江	3	340	9	230	—	—
梶賀	3	150	1	18	—	—
坂場	6	538	—	—	—	—
曾根	1	49	5	150	—	—
九鬼	1	170	2	130	—	—
宮ノ上・座ノ下	1	61	5	125	4	163
泉	2	79	1	22	—	—
早田	3	159	4	70	—	—
須賀利	2	190	1	44	—	—
野地町	2	82	3	53	—	—
新田	4	300	1	26	—	—
なみき	2	399	—	—	—	—
【未結成地区】						
中川	1	100	—	—	—	—
天満ふれあい	1	40	—	—	—	—
今年度	訪問	20 地区	延べ 48 回		延べ 4,370 名	
	サロン	14 地区	延べ 41 回		延べ 1,162 名	
	世代間	3 地区	延べ 8 回		延べ 503 名	
前年度	訪問	18 地区	延べ 50 回		延べ 4,375 名	
	サロン	9 地区	延べ 18 回		延べ 597 名	
	世代間	4 地区	延べ 9 回		延べ 472 名	

- (3) 友愛訪問活動（尾鷲市老人クラブ 連合会実施主体）へ助成金を支援した。

女性委員会が「マスコット作り」でペットボトルケースを作成した。各クラブで手作りマスコット、日用品、手作り菓子などをもって各家庭を訪問し、安否確認と健康状況や日常生活について話し合いを行った。

訪問対象者人数 540 名（前年度 448 名） 203,000 円

5. 地域ふれあい事業（ 障がい者 ）

- (1) 尾鷲市ふれあいスポーツ祭 2016 の開催

障がいの有無に関わらず、参加者がレクリエーションを通して交流を深めることを目的に、関係機関やボランティアと協働で実施した。

開催日：平成 28 年 10 月 29 日

場 所：東紀州くろしお学園おわせ分校体育館

参加者：約 350 名

- (2) 障がい者団体への活動支援

- ① 尾鷲市身体障がい者互助会の事務局として会務の運営を行った。
- ② 平成 28 年度三重県障がい者芸術文化祭を後援として開催した。
- ③ 障がい者交流会など当事者団体への活動助成を行った。 5 万円

6. 地域ふれあい事業（ 世代間交流 ）

子どもたちが心豊かに育つ一助となること、世代間交流を目的に、次の事業を開催した。地域住民との協働を意図し、個人ボランティアや中学生ボランティアとともに実施した。

- (1) 親子もちつき大会&親子遊び

開催日：平成 28 年 12 月 3 日

参加者：乳幼児・保護者計 56 名

内 容：親子遊び

親子もちつき大会

ボランティア：中学生 17 名

婦人会 9 名



7. 福祉教育事業

(1) 福祉協力校の指定と助成

福祉協力校〈小学校7校、中学校2校、高校1校、特別支援学校1校〉を指定し、各学校の福祉教育の充実を図るために助成を行った。

1校5万円を上限に、10校に50万円を助成

(2) 福祉協力校との懇談

各学校を訪問し、福祉教育担当者と懇談、情報交換を行った。

(3) 福祉体験教室の開催

福祉体験教室の開催や、福祉教育授業への支援を行った。

内 容：ユニバーサルデザイン教育及び
福祉保健センター見学、
福祉教育授業への講師紹介

実施校：尾鷲小学校、矢浜小学校、
向井小学校、
紀北町立三浦小学校



(4) 福祉作品コンクールの実施

福祉教育の一環として、小・中学校生を対象に、福祉をテーマにした標語を募集した。福祉関係者の協力を得て審査を行った。入賞作品は尾鷲市社会福祉大会にて表彰し、福祉の啓発を行った。

8. 広報・啓発事業

(1) 尾鷲市社会福祉大会の開催

尾鷲市の福祉に貢献された方を顕彰し、福祉の啓発と活動の周知を行った。

開催日：平成28年11月26日

場 所：尾鷲市中央公民館

参加者：約120名

内 容：第一部 顕彰

- ・尾鷲市市長表彰 9名、1団体
- ・尾鷲市社会福祉協議会会長表彰 20名

第二部 福祉作品コンクール表彰及び実践発表

・福祉作品コンクール（標語） 21名

実践発表①『平成28年熊本地震にかかる災害ボランティアセンター活動報告』

社会福祉法人尾鷲市社会福祉協議会 與谷 和士

実践発表②『尾鷲市における災害ボランティアについての取り組み』

社会福祉法人尾鷲市社会福祉協議会 山本 雄一

(2) 広報誌「おわせ社協」の発行

事業の周知と福祉の啓発を目的に、全世帯に向けた広報誌を年間4回（5月・7月・10月・3月）発行した。

9. 社協賛助会員制度

会員制度による住民参加、地域福祉活動の充実を目標に、当会役員、民生委員児童委員、地区福祉委員会などとの連携により、賛助会費の募集を行い地域福祉活動の財源確保に努めた。

（単位：円／件）

	平成28年度		前年度		前年比較	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数
賛助会員	1,473,000	1,383	1,419,000	1,324	54,000	59
特別会員	385,000	42	306,000	41	79,000	1
住民会員	0	0	0	0	0	0
総数	1,858,000	1,425	1,725,000	1,365	133,000	60

10. 赤い羽根共同募金運動

(1) 募金運動の実施

民生委員児童委員、自治会、婦人会など多くの関係者の協力を得て募金活動を実施した。

① 一般募金運動（強化月間：平成 28 年 10 月 1 日より 2 ヶ月間）
募金実績（単位：円）

	平成 28 年度	前年度	前年比較
目標額	3,142,600	3,371,900	▲229,300
実績額	2,835,077	3,007,849	▲172,772
達成率	90.21%	89.2%	—————

募金種別による内訳（単位：円／件）

	平成 28 年度		前年度		前年比較	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数
戸別募金	1,815,435	3,945	1,950,973	4,170	▲135,538	▲225
法人募金	692,901	112	687,780	111	5,121	1
街頭募金	67,845	5	63,840	5	4,005	0
学校募金	60,662	8	82,332	9	▲21,670	▲1
職域募金	112,732	20	112,408	20	324	0
イベント募金	49,622	5	41,850	7	7,772	▲2
ハートフルベンダー	10,298	1	9,907	1	391	0
募金箱・その他	25,582	39	58,759	46	▲33,177	▲7
合計	2,835,077	4,315	3,007,849	4,369	▲172,772	▲234

11. 日本赤十字社事業および社資増強運動（日赤募金）

(1) 社資増強運動（日赤募金）の実施

日赤奉仕団（尾鷲市連合婦人会）、自治会、各協力団体の協力を得て、募金運動を実施した。

① 募金実績（平成 28 年度 5 月 1 日より 1 ヶ月間実施）

	平成 28 年度	前年度	前年比較
目標額	2,904,000 円	2,964,000 円	▲60,000 円
実績額	2,576,504 円	2,579,853 円	▲3,349 円
達成率	88.7%	87.0%	—————

(2) 赤十字義援金および緊急物資の取り扱いと配布

① 国内の災害に対する義援金の募集

・熊本地震災害義援金	182件	4,978,960円
・東日本大震災義援金	4件	20,143円
		(累計 51,487,506円)

(3) 赤十字救急法講習会の開催

開催日：平成28年7月23日・24日・30日

受講者：9名

指導者：日赤救急法指導員

II. 総合相談・支援部門

1. 生活支援係

1. 総合相談

(1) 総合相談事業

① 総合相談事業

「だれもが安心して生活できるまちづくり」の理念のもと、市民の困りごとに対し、各係や関係機関と連携した相談対応を行った。

(ア) 相談実績について

実相談件数：77件（相談者の属性や内容に重複あり）

（単位：件）

属性	件数
低所得者	39
高齢者	14
障がい者	10
その他	14

（単位：件）

相談内容	件数
自立生活に関する事	26
貸付に関する事	22
借金・滞納に関する事	1
成年後見制度に関する事	3
日常生活自立支援事業の利用	6
虐待・権利侵害に関する事	5
生活支援に関する事	10
地域・人間関係に関する事	3
仕事に関する事	10
その他	11

② 相談事例勉強会の開催

各係の相談事業担当職員による勉強会を開催

(ア) 平成28年8月18日（参加：14名）

内容：ケーススタディ（提供：地域包括支援センター）

(イ) 平成28年10月26日（参加：19名）

内容：スーパービジョンの体験



2. 生活再生相談事業

(1) 生活困窮者自立相談支援事業（市受託事業）

① 相談窓口の設置

- (ア) 実相談件数 : 39 件
(イ) 支援計画策定件数 : 18 件
(ウ) のべ対応件数 : 513 件（支援申込み前含む）

（単位：件）

対応内容	件数
電話相談	148
訪問・同行支援	136
面談	112
所内会議	3
支援調整会議（プラン策定・評価）	18
その他関係機関との会議	1
関係機関との照会・協議	67
その他	28

② 支援体制の構築

(ア) 制度についての周知啓発

- A) 広報紙等を活用した周知啓発
B) リーフレットの作成および配布
C) 支援関係者に向けた周知啓発
・ 中電興業株式会社水道検針員研修会（平成 28 年 5 月 19 日）
・ 民生委員児童委員協議会定例会（平成 29 年 2 月 14 日）

(イ) 実態調査

- ・ 民生委員を対象とした引きこもり世帯の実態調査
方法：郵送によるアンケート調査
期間：平成 29 年 2 月 14 日～2 月 28 日

(ウ) 関係機関との連絡会議

- ・ ハローワーク尾鷲との連絡会議（平成 28 年 6 月 27 日）
・ 市関係各課との連絡会議（平成 28 年 7 月 20 日）
・ 津地方検察庁熊野支部との連絡会議（平成 28 年 9 月 14 日）

(エ) 支援調整会議（開催回数：12 回）

(2) 家計相談支援事業（市受託事業）

① 相談窓口の設置

(ア) 実相談件数：33 件

(イ) 支援決定（計画策定）件数：15 件

② 支援体制の構築

(ア) 制度についての周知啓発

- ・ リーフレットの作成および配布
- ・ プロパンガス供給事業者への訪問

(イ) 実態調査

- ・ プロパンガス供給事業者を対象とした滞納者の実態調査
方法：郵送によるアンケート調査
期間：平成 28 年 5 月 25 日～6 月 30 日

3. 生活資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業（実施主体：三重県社会福祉協議会）の貸付状況

① 平成 28 年度中の完済件数	1 件
緊急小口資金	1 件
② 平成 28 年度中の新規契約件数	3 件
緊急小口資金	3 件
③ 継続返済件数	16 件
教育支援費（就学支度資金を含む）	7 件
福祉費	4 件
技能習得費	1 件
緊急小口資金	4 件

(2) 福祉金庫緊急貸付事業（当会独自事業）の貸付状況

- ① 平成 28 年度中の完済件数 9 件（前年度 5 件）
- ② 平成 28 年度中の新規貸付数 5 件
- ③ 期限内返済中及び滞納者の状況（平成 29 年 3 月末現在）

償還の状況	人数
返済中・滞納者数	29
定期的に返済している方	1
不定期であるが、返済をしている方	2
今年度全く返済実績のない方	26

(3) 緊急食料等支給事業

食料・紙おむつ等を緊急に要する困窮者世帯に支給した。12件

4. 権利擁護事業

(1) 日常生活自立支援事業

紀北地域（尾鷲市・紀北町）を対象とする基幹的社協として、2市町の地域包括支援センター、障がい者総合相談支援センター及び関係機関と連携を取り、積極的な対応を心掛けた。利用者と信頼関係の構築を継続し、安心してきる適切な金銭管理・書類預かりサービスを実施した。

平成 28 年度実績

（単位：件）

	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	前年度
相談件数	184	212	447	103	946	1,074
新規契約	3	1	2	0	6	3
解約件数	2	3	3	0	8	6

利用者数

（単位：件）

	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	前年度
契約件数	7	17	10	4	38	38

利用者地区

（単位：件）

	尾鷲市	紀北町	その他	合計
契約件数	16	21	1	38

(2) 法人後見・サポート事業

- ① 制度の利用に関する相談 3件（うち申立て支援2件）
- ② 後見人等の受任 1件

【受任件数】

(単位：件)

	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	前年度
新規受任	0	0	0	0	0	0
既受任	1	0	0	0	1	1
終了件数	0	0	0	0	0	0
累計件数	1	0	0	0	1	1

③ 運営委員会

開催日：平成 29 年 3 月 31 日

2. 地域包括支援センター

1. 包括的支援事業

(1) 総合相談支援

① 総合相談窓口の設置

(ア)尾鷲市福祉保健センターにて、相談内容に応じたサービスや制度の利用支援・情報提供及び関係機関等の紹介等対応を行った。

(イ)輪内ブランチにて、相談内容に応じたサービスや制度の利用支援・情報提供及び関係機関等の紹介等対応を行い、地域に根ざした相談機関としての活動を行った。

(単位：件)

内 訳	介護・日常生活	サービス利用	医療	所得	その他	苦情	権利擁護	合計
件 数	403	140	8	3	4	2	5	565

(前年度相談受付件数： 542 件)

②地域包括支援センターの周知・啓発

「社協だより」への掲載 平成 28 年度 4 回 前年度 4 回

「包括だより」の発行 平成 28 年度 4 回 前年度 4 回

③地域ケア会議の運営

他職種協働による個別ケースの支援を通じた、地域支援ネットワークの構築、地域の自立支援に資するケアマネジメントの支援、地域の課題の把握などを行った。 〈平成 28 年度 4 件 前年度 9 件〉

(2) 権利擁護業務

① 高齢者虐待への対応・防止

(ア) 高齢者虐待相談窓口の設置

尾鷲市福祉保健課と協働で高齢者虐待についての相談窓口を設置し相談の対応を行った。

(イ) 高齢者虐待相談の受理

平成 28 年度受理件数 5 件（うち認定 1 件：内訳重複あり）（単位：件）

内 訳	身体的	心理的	経済的	性的	介護放棄
件 数	1	1	0	0	0

(前年度虐待認定件数： 3 件)

② 認知症高齢者への支援

(ア) 認知症サポーター養成講座

	開催月日	参加人数	依頼先
第1回	6月6日	14名	尾鷲高等学校
第2回	6月9日	9名	三重県社会福祉協議会
第3回	9月17日	56名	尾鷲中学校2年1組2組
第4回	9月17日	55名	尾鷲中学校2年3組4組
第5回	10月19日	12名	尾鷲郵便局
第6回	12月8日	14名	社協介護事業所
合計		160名	

(前年度参加人数：360名)



(第3回尾鷲中学校での様子)



(第2回シニアいきいきチャレンジ教室での様子)

(イ) 認知症地域勉強会

開催月日：平成28年5月12日

参加人数：約80名

場所：三木里コミュニティセンター

講師：橋爪 眞言医師



(勉強会での様子)

(ウ) 尾鷲市高齢者等 SOS ネットワーク事業への協力

徘徊や迷子になる恐れのある認知症高齢者の情報を尾鷲市に登録し、行方不明になった場合は予め登録を行った協力団体と連携して搜索の協力を行う。

③ 福祉制度等の活用

(ア)日常生活自立支援事業の活用

日常生活自立支援事業の利用調整（相談斡旋を含む）を行った。

(イ)成年後見制度の活用

成年後見制度の利用援助（情報提供、申立支援、斡旋等）を行った。

④ 出前講座の開催

開催日	内 容	参加人数	依頼先
10月13日	地域包括支援センターの概要	21名	三重県尾鷲保健所
10月13日	認知症予防と健康体操	18名	倉の谷サロン
10月20日	認知症予防と健康体操	8名	向井コミュニティセンター
10月20日	認知症予防と健康体操	12名	大曾根コミュニティセンター
2月9日	介護保険制度の概要、 嚥下機能向上体操等	13名	倉の谷サロン

（前年度開催回数：4回）



（倉の谷サロンでの様子）

（大曾根コミュニティセンターでの様子）

(3) 包括的継続的ケアマネジメント

① 地域包括ケア会議の開催

尾鷲市から委嘱された委員により、介護予防・生活支援サービスや地域ケアの総合調整を推進していく。

	開催日	参加人数	内 容
全体会議	6月16日	29名	委員紹介 尾鷲市高齢者SOSネットワーク事業についての報告

② ケアマネジャー支援

居宅介護支援事業所連絡会議において事例検討及び研修会を開催しケアマネジメント力を高める取り組みを行った。

居宅支援事業所連絡会議5回開催

	開催日	参加人数	内 容
第1回	6月16日	20名	在宅における薬剤師の関わり方研修 講師：黒田 泰史氏（くろだ薬局薬剤師）

第2回	9月8日	23名	ゴミ屋敷など支援困難者事例の研修 講師：小口 将典氏（関西福祉大学講師）
第3回	11月24日	23名	看取りケアに関する研修会 講師：大原 寛之氏（藤田保健衛生大学七栗サナトリウム医師）
第4回（紀北町合同）	1月19日	22名 尾鷲市分	在宅医療介護連携 事例検討会 在宅医の参加によるサービス付き高齢者専用住宅での看取り事例2事例を検討
第5回（紀北町合同）	2月21日	24名 尾鷲市分	総合事業に関する勉強会

（前年度開催回数：4回）



（第1回研修会での様子）



（第4回事例検討会での様子）

- ③ 居宅介護支援事業所のケアマネジャーからの相談に対応した。
平成28年度39件 前年度43件

（4）介護予防ケアマネジメント

介護予防事業、予防給付が効果的かつ効率的に提供されるよう、適切なケアマネジメントを行い、介護予防ケアプランの作成等必要な支援を行った。

① 要支援1・2の介護予防支援

予防プラン作成および給付管理数

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
自機関分	124	121	123	123	120	133	
委託分	68	68	67	65	67	69	
合計	192	189	190	188	187	202	
認定者数	408	367	396	401	410	399	
利用率%	47	47	47	46	45	50	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
自機関分	127	122	123	122	119	114	1,471
委託分	75	72	67	66	66	68	818

合計	202	194	190	188	185	182	2,289
認定者数	398	365	392	389	395	396	4,716
利用率%	50	49	48	48	46	45	49

(前年度合計：2,397件)

二次予防事業対象者への介護予防支援

尾鷲市が実施した65歳以上の方への基本チェックリストにより二次予防事業の対象となり事業に参加を希望された方への事業内容の説明、健康相談等を実施し事業の利用支援を行った。

事業内容	参加人数	備考
通所介護予防事業（運動器、うつ・認知症・閉じこもり予防）	30人	運動器・閉じこもり予防 うつ予防の複合プログラム

(前年度参加人数：65人)

2. 任意事業

(1) ケアプラン点検事業

紀北広域連合主催のケアプラン点検事業に主任介護支援専門員(2名)が4回参加した。

(2) 家族介護支援事業

要介護高齢者を介護する家族の精神負担の軽減と介護者同士の情報の交換を目的にした交流会の開催及び介護者及び介護職員を対象に介護技術についての研修会を開催した。

① 介護者の会の開催

平成28年度 80名

	開催日	参加人数	内容
第1回	5月12日	13名	認知症の理解と介護 講師：濱口 敦子氏 デイサービスの概要について 講師：下地 伴樹氏
第2回	7月28日	14名	要介護者向け食事の調理実習・試食 講師：小川 早知子氏 摂食回復支援食の試食
第3回	9月15日	10名	アロマセラピー講座 講師：平山 美喜子氏
第4回	11月10日	23名	介護方法（実技）講習会 講師：ユマニテク福祉大学 伊藤 幾代氏
第5回	1月16日	10名	認知症の理解と介護 講師：濱口 敦子氏

第6回	3月16日	10名	おしゃべり会 ランチバイキングにて交流会
-----	-------	-----	-------------------------

(前年度参加人数：71名)



(介護方法講習会での様子)



(ランチバイキングでの様子)

②福祉用具の利用支援

福祉用具の利用に関する助言や購入支援を行った。

福祉用具購入支援者 平成28年度 12名 前年度 13名

③住宅改修の利用支援

住宅改修に関する助言や理由書等の必要書類の作成

住宅改修利用支援 平成28年度 39名 前年度 30名

3. その他

(1)研修会への参加

- ・ 各専門職に対する研修会等

(2)会議への参加

- ・ 地域包括支援センター運営協議会
- ・ 三重県地域包括支援センター連絡会議
- ・ 運営推進会議
 - 地域密着型小規模特別養護老人ホーム :2カ所
 - 認知症対応型共同生活介護 :7カ所
 - 通所介護事業所 :6カ所
- ・ 養護老人ホーム入所判定委員会
- ・ 在宅医療介護連絡協議会

(3)新しい包括支援事業実施に向けた作業部会への参画

- ・ 介護予防・日常生活支援総合事業
- ・ 認知症施策の推進
- ・ 在宅医療介護連携推進

(4)定例ミーティングの実施（地域包括支援センター内での打合わせ）

- ・ 新規相談ケースについての検討会
- ・ 各自担当ケースについての報告・相談
- ・ 各事業の進捗状況の確認及び調整

3. 紀北地域障がい者総合相談支援センター

1. 紀北圏域障がい者地域生活支援事業

(1) 相談支援事業

障がい者のライフステージに応じた地域生活を支援するために、福祉サービスの利用援助を身近な地域で行う。また、地域で安心できる生活を継続し、障がいの有無により分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会の実現という総合支援法の理念に基づいた相談支援を行う。

平成28年度の相談者実数は349名であった。障がい別では知的障がいや精神障がいに関する相談が増えた。また関係機関と連携して支援を行うケースが増えている。これは多問題や家族全てに支援が必要なケースが増加し多機関連携やチーム支援が必要になっているためである。

支援内容については、就労に関する相談が多い。働いて自分の力を発揮したい、収入を得て生活を安定させたいという希望が多い。また、支援センターに相談するきっかけとして「仕事したい」という内容が相談しやすいという事も考えられる。すぐに就労につながらないケースについては、市町委託の基幹型支援センターと就労・生活支援センターそれぞれの担当が共有して支援を行っている。家計に関する相談も増加している。金銭管理が上手くできず生活に支障が生じるケースが多く、独居の方や家族の協力が得られない方の今後の支援体制も課題となる。また不安の解消や情緒安定に関する支援も多く、特に精神障がいの方については地域資源が少ない地域であり支援センターでの電話相談が有効な支援方法の一つとなっている。福祉サービスの利用に関する相談についてはサービス等利用計画を作成する相談支援事業所の支援が整ってきたこともあり、やや減少している。

① 障がい別 年間相談者実数 (単位：人)

区分	実人員	身体	重症 心身	知的	精神	発達	高次脳 機能	その他
尾鷲市	201	25	4	86	42	33	3	8
紀北町	148	12	2	65	46	20	1	2
計	349	37	6	151	88	53	4	10

② 支援方法別 相談延べ件数 (単位：件)

区分	訪問	来所 相談	同行	電話 相談	電子 メール	関係 機関	個別支 援会議	その他	計
尾鷲市	802	446	119	706	68	684	138	502	3,465

紀北町	746	184	102	649	42	279	96	147	2,245
計	1,548	630	221	1,355	110	963	234	649	5,710

③支援内容（延べ件数）

（単位：件）

内容	のべ件数	尾鷲市	紀北町
福祉サービスの利用に関する支援	1,019	612	407
障害者症状の理解に関する支援	318	166	152
健康・医療に関する支援	352	203	149
不安の解消・情緒安定に関する支援	777	451	326
保育・教育に関する支援	695	530	165
家族関係・人間関係に関する支援	342	203	139
家計・経済に関する支援	220	112	108
生活技術に関する支援	138	49	89
就労に関する支援	1,103	628	475
社会参加・余暇活動に関する支援	705	402	303
権利擁護に関する支援	42	21	21
その他	248	131	117

(2) 紀北地域協議会の運営支援

平成 28 年度は、こころ部会、就労部会、相談部会、くらし部会の 4 部会の運営、活動を行った。第 3 期紀北地域障がい者福祉計画にもとづき成果目標や数値目標の達成を目指し、PDCA サイクルが機能するように評価方法も取り入れた。圏域研修は障がい者雇用をテーマに開催した。初めて企業の方にも参加いただき、紀北地域の障がい者雇用について共に考える機会となった。平成 20 年度から取り組んでいる防災については、避難訓練を 2 回実施した。

平成 28 年度 紀北地域協議会部会活動

部会名	取組内容	活動実績
こころ部会	「地域移行、地域定着について」 在宅援護事業の実施と考察 施設入所者への訪問と聞き取り 生活保護受給者で精神科病院長期入院者の訪問と状況把握 サロン活動への保健師、栄養士	4 回 開催 在宅援護事業利用者の増加。 在宅援護事業利用から地域移行のための一般相談開始につながった。 パンフレット等作成による地域へ

	の参加 地域資源及び地域移行パンフレットの作成	の啓発
就労部会	「障がい者雇用の拡大について」 企業訪問を行い、障がい者雇用に関する企業側の意見の収集 企業の意向と支援の在り方をグループワークで検討 事業所見学会の体制作り 就労移行支援事業所見学と意見交換会の実施 ステップ会議の継続	5回 開催 事業所見学 1回 ステップ会議 2回 企業訪問シートモデル様式の完成 一般就労及び実習件数の増加 福祉施設からの一般就労移行者数（紀北圏域5名） 就労移行支援事業の利用者数の増加（6名）
相談部会	「地域生活支援拠点の整備」 障がい者グループホーム設置に関する説明会の実施と各団体の訪問 障がい者グループホームについて勉強会の実施 三重県主催のグループホーム説明会に参加	尾鷲市に緊急時や体験利用も可能な軽度対象者のグループホームが開設された。 紀北町にグループホームが新設されることになり、申請等の準備が開始された。 説明会等もあり、地域でグループホームの必要性や理解が進んだ 既存のグループホーム担当者が部会に参加し、利用者の高齢化等などの問題提起を行った。
くらし部会	「おわふくまっぷの配布と活動支援」 おわふくまっぷの配布と新聞社への情報提供 三重県主催「障がい者芸術文化祭」へ共同作品の出展	芸術祭の共同作品制作や、まっぷを利用しての街歩きなど一緒に活動する機会を作ることができた。

研修名	講師	参加人数
障がい者が働く本当の価値は ～変化の時代の障がい者雇用 を成功に導く戦略～	NPO法人障がい者就業・雇用支援 センター 理事長 秦 政 氏	63名



平成 28 年度 避難訓練

平成 28 年度目標「地域に出て避難訓練を行う。地域の人に知ってもらう」

開催日・場所	内 容	参加人数
平成 28 年 5 月 21 日 尾鷲市	賀田駅に集合し賀田区避難所見学 賀田コミュニティーセンターで防 災のDVDを見て炊き出しの体験 をする。自分で避難グッズを用意 し確認する。	当事者、家族 18名 支援者等 9名 ボランティア 7名
平成 28 年 11 月 12 日 紀北町	紀北町に完成した避難タワーに登 る体験をした。備蓄品や防災の話 を聞き、物資の受け取り体験をし た。	当事者 14名 支援者 9名 ボランティア 5名



(3) ピアサポーター活動支援

今まで養成してきたピアサポーターが地域で暮らす障がい者に対して行う支援活動の体制づくりや助言を行う。平成 28 年度は尾鷲市林町会館と紀伊長島保健センターで月 2 回行うすずらんサロン（日中の居場所作り）を中心に活動した。サロンには述べ 95 人が参加した。

2. 就業生活支援事業

国の雇用安定等事業である就業・生活支援センター事業では、障がい者の雇用の安定や実習先の開拓に取り組んだ。一般就労 17 名、実習 11 名の実績があった。

一般就労を希望する障がい者の方々の就労先が少ないのは変わらないが、就労支援の専任職員配置によって、企業開拓や実習受け入れ事業所を開拓し初めて障がい者雇用を行った企業や複数人の雇用を検討してくれる企業もあった。また、尾鷲市役所では実習の受け入れも開始され、障がい者雇用に対する理解が進んでいる。今後も障がいに対する理解を地域や企業に広めていき、一人でも多くの障がい者の方々が地域の企業で働き、地域社会の中で安心した生活が送れるように支援を進めていく。

就労登録者 (単位：人)

登録者数	新規	継続	合計
	30	116	146
内訳 身体障がい	8	12	20
知的障がい	15	60	75
精神障がい	7	38	45
その他	0	6	6

平成 28 年度の就労実績 (単位：人)

障がい種別 1 週間の 勤務時間数	障がい種別				
	身体	知的	精神	その他	計
一般 (30 時間以上)	2	3	4	2	11
20 時間以上 30 時間未満	1	0	0	0	1
20 時間未満	3	1	1	0	5
計	6	4	5	2	17

市町別就労実績

(単位：人)

区分	合計	(内訳)			
		身体	知的	精神	その他(発達)
圏域合計	17	6	4	5	2
内 訳	尾鷲	5	3	4	0
	紀北	5	1	1	2

相談支援件数(内容別)

(単位：件)

内 容	身体	知的	精神	その他	計
就職に向けた相談支援	155	338	310	153	956
職場定着の為の相談支援	59	152	263	46	520
日常生活に関する相談支援	17	268	137	71	493
就業と生活に関する相談支援	21	119	129	72	341
計	252	877	839	342	2,310

相談支援件数(手段別)

(単位：件)

センターへの来所(本人のほか、家族等も含む)	424
電話・ファックス・E-mail等	874
職場訪問(定着支援のほか、職場実習支援を含む)	232
家庭・入所施設への訪問	86
その他(ハローワークへの同行訪問、各種手続きの支援、ケース会議への参加等)	694
計	2,310

3. 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業・指定一般相談支援事業

障がい福祉サービス利用に必要な計画作成を行なった。本人の思いを引き出し、サービス利用だけでなく、これからの生活についても一緒に考えながら支援を行った。

計画作成数 (単位：件)

	利用計画	継続支援
特定相談支援	155	458
障害児相談支援	4	6

支援方法別 相談延べ件数 (単位：件)

区分	訪問	来所 相談	同行	電話 相談	計
尾鷲市	363	76	46	214	699
紀北町	294	21	4	128	447
計	657	97	50	342	1,146

4. 社会参加促進事業

(1) 音楽教室

尾鷲市福祉保健センターで開催。「癒やしの会」主催で音楽療法士福田先生に依頼して実施。

開催 12 回 延べ参加人数 139 名 (尾鷲市 92 名 紀北町 47 名)

(2) フラワーアレンジメント教室

尾鷲市福祉保健センターで開催。

開催 12 回 延べ参加人数 174 名 (尾鷲市 94 名 紀北町 80 名)

(3) 歩行訓練

生活訓練が必要な視覚障がい者に対して歩行訓練やパソコン・点字の指導を行う。

開催 12 回 延べ参加人数 20 名

(4) ウィークエンドサークル

休日の日中活動の場として実施。尾鷲市福祉保健センターを中心に行う。

開催 9 回 延べ参加人数 125 名 (尾鷲市 60 名 紀北町 65 名)

(5) おもちゃ図書館

障がい児等の遊び場の提供や交流の場として実施。

おもちゃの貸出も行う。開催 12 回

(6) はあと畑

毎週月曜日、会員の昼食を作り、尾鷲市福祉保健センター1階ロビーを利用し、障がいのあるメンバーが接客を行いながら就労体験をする。

延べ参加人数 41 名（尾鷲市 10 名 紀北町 31 名）

(7) はあとの会

親子で療育活動を行う会のサポートを行う。

開催 7 回 延べ参加人数 16 名（尾鷲市 9 名 紀北町 7 名）

(8) その他

尾鷲市、紀北町のスポーツ大会、紀北町の地域交流会、くろしお学園おわせ分校運動会、学習発表会等に参加した。

5. 日中一時支援事業

学校の夏休み、冬休み、春休みにおいて家庭外の居場所が必要な障がい児に対して日中一時サービスとして預かり保育を行った。

延べ人数 47 名（実人数 尾鷲市 2 名 紀北町 1 名）

6. 障がい児等療育相談支援事業

(1) 療育相談

療育の専門相談機関としての役割を持ち、地域で暮らす障がい児や家族の相談支援を行った。紀北地域における療育体制を強化するため、療育教室（すまいる教室）へのボランティアの協力、加配保育士の見学・参加、特別支援サークルの支援参加等、保育園との連携を充実させた。また個別支援会議や関係機関参加によるカンファレンスを行ない、丁寧な支援を行った。昨年度に引き続き動作法体験研修を定期的で開催した。

登録者

(単位：人)

登録者数	119
内訳 身体障がい	4
知的障がい	23
精神障がい	0
その他	92

相談支援の内容

(単位：件)

活動内容	延べ件数	実人数
電話	94	34
来所	49	11
訪問	71	20
ケア会議	55	33
助言・利用調整	151	25
その他（重度心身障害者相談事業・親子の会）	41	12
合計	461	135

(2) 療育指導（すまいる教室）

療育教室（すまいる教室）を開催し、障がい児や発達の子どもの小グループによる療育指導を行った。発達の子どもの増加に伴いグループ数を増やし各グループ月2～4回、交流会を年2回行なった。親子参加を基本とし保護者の孤立を防ぎ相談や交流の機会となっている。社会資源が少ない地域の障がい児に専門職による専門療育の機会の提供として言語療法士による指導を月2回、「風の広場」による専門療育指導（言語療法士）を年4回行った。

参加状況

(単位：人)

区分	実人数	延べ人数
尾鷲市	31	499
紀北町	11	148
合計	42	647



(3) 発達障がい児等の早期発見システムへの参加

尾鷲市の保健・福祉・教育の担当者からなる「チームおわせ」に参加し、保育所、幼稚園の巡回相談を行い個別支援計画の作成につなげた。保育所・幼稚

園 8 箇所巡回訪問した。その他、年 11 回の乳児健診委員会での支援対象児の把握や紀北町で開始された 5 歳児健診への参加協力、草の実健診への協力、特別支援学級担任、介助員の研修指導も行い紀北地域における、とぎれない支援の体制作りと関係機関との連携強化に努めた。

III. 介護サービス部門

1. 居宅介護支援事業所

介護保険の指定居宅介護支援事業所として、居宅での介護サービスやその他の福祉サービス、保健医療サービスが適切に利用できるよう、利用者自身の立場でその有する能力に応じて、自立した生活を送るための公正中立な支援を行った。

1. 業務内容

- 居宅サービス計画（ケアプラン）の作成
- 介護保険要介護・要支援認定申請代行
- 利用者、サービス事業者との連絡調整
- 介護に関する相談・助言
- 介護保険外の福祉サービスや福祉制度の利用援助
- 介護保険施設への紹介
- 国保連への給付管理及び介護報酬の請求（訪問介護・訪問入浴・通所介護）
- 介護保険要介護認定調査（委託）
- その他の苦情や問い合わせ

2. 住宅改修支援事業請求実績

事業名	平成28年度	前年度
住宅改修支援事業	1名	1名

3. 居宅サービス計画依頼実績

	平成28年度	前年度
居宅新規	59名	90名
居宅終了	51名	65名
※内訳（死亡）	26名	28名
（入所）	13名	28名
（移動）	12名	9名
予防給付 新規	6名	7名

4. 月別請求額

◇居宅介護

(単位：件・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	186	191	189	180	175	171
収入額	2,864,840	2,978,820	2,943,310	2,784,760	2,696,890	2,626,320

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
171	169	176	172	177	180	2,137
2,639,210	2,600,260	2,705,200	2,667,740	2,733,840	2,781,100	33,022,290

(前年度) 利用者人数(延べ) 2,180名 収入額 33,726千円

◇介護予防

(単位：件・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	15	14	14	14	14	15
収入額	67,000	60,200	60,200	62,700	60,200	67,000

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17	14	12	8	6	7	150
78,100	60,200	51,600	34,400	25,800	32,600	660,000

(前年度) 利用者人数(延べ) 164名 収入額 710千円

5. 実習生受入れ

介護支援専門員資格取得の為の実習生を1名受入れ、実習指導を実施した。

6. ケアマネジメントの質の向上を図る

(1) 週1回居宅事務所内でのミーティング実施

- サービス提供にあたっての留意事項
- 困難事例ケース検討等

(2) 居宅介護支援連絡会や外部研修会への参加



2. 訪問介護事業所

「いつまでも自宅で過ごしたい」との思いに応えられるよう、ホームヘルパーが自宅を訪問し、日常生活上必要な支援を行った。特定事業所加算、処遇改善加算取得事業所にふさわしい事業所となるよう、ヘルパー個別の研修計画による多様な研修を行い、事業所のレベルアップを図った。



(チームでの介護実技研修復習会)

1. 訪問介護・介護予防訪問介護事業 (介護保険)

介護等が必要な方を対象に、自宅にホームヘルパーが訪問し、身体介護や生活援助のサービスを提供した。要介護認定の利用者は減少したが、要支援認定の利用者が増加し、全体の収入額は増加した。

(1) サービス内容

- 身体介護：食事介助、入浴介助、排泄介助、体位変換、通院介助、その他の身体介護
- 生活援助：調理、洗濯、買物、掃除、その他の家事援助
- 身体介護と生活援助の組み合わせ
- 通院等のための乗車または降車の介助

◇訪問介護月別実績

(単位：件・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	88	86	93	83	82	79
収入額	3,756,910	4,152,760	4,560,880	3,931,740	3,828,780	3,642,480

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
76	79	85	87	90	90	1,018
3,874,730	3,750,860	4,116,780	4,023,020	3,853,120	4,008,320	47,500,380

(前年度) 利用者人数(延べ) 1,172名 収入額 48,147千円

◇介護予防訪問介護月別実績

(単位：件・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	29	26	30	30	32	29
収入額	483,650	445,990	486,210	513,740	574,960	522,820

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
31	29	32	29	29	31	357
549,620	524,260	567,890	491,870	432,470	504,270	6,097,750

(前年度) 利用者人数(延べ) 289名 収入額 4,482千円

2. 障害者総合支援事業

(1) 障害福祉サービス

障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスの提供では、居宅介護、重度訪問介護、同行援護、移動支援及び在宅援護の各事業を実施した。新規利用者があり、利用人数、収入額とも増加した。

◇月別単位数(実績月)

(単位：件・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	36	39	38	36	40	35
収入額	1,501,900	1,473,650	1,593,280	1,521,740	1,625,080	1,455,600

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
37	37	36	36	39	40	449
1,601,590	1,485,060	1,457,480	1,447,990	1,517,620	1,709,720	18,390,710

(前年度) 利用者人数(延べ) 433名 収入額 15,485千円

3. 生活支援サービス「あんしん」(保険外サービス) と一般乗用旅客事業

訪問系サービスの介護保険外事業の一環として生活支援サービス「あんしん」、一般乗用旅客事業としてケアプランに連動した輸送と介護保険外の輸送を実施している。

◇あんしん月別実績

(単位：件・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	7	14	12	19	19	13
収入額	17,400	37,600	29,000	47,100	46,700	32,100

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12	17	13	12	18	21	177
29,300	40,100	33,400	24,500	39,300	60,600	437,100

(前年度) 利用者人数(延べ) 138名 収入額 500千円

◇運行利用料月別実績

(単位：件・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	85	86	94	86	87	75
収入額	165,490	163,840	172,150	189,220	188,310	146,400

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
86	88	85	88	90	90	1,040
183,730	175,860	160,380	152,410	178,830	215,940	2,092,560

(前年度) 利用者人数(延べ) 1,092名 収入額 2,147千円

4. 研修会等参加状況

(単位：名)

研修名	参加人数
介護事業・日常生活支援総合事業について	3
同行援護従業者養成研修	1
認知症という病気について	11
応急処置講習会	13
感染症勉強会	14
理学療法士に学ぶ介護技術	17
交通安全運転講習会	32
クッキング教室	16
法令遵守講習会	5
防災講習会	7
介護実技講習	7
認知症サポーター講習	1
職員接遇研修会	31
総合事業勉強会	27



(クッキング教室)



(感染症勉強会)

3. 訪問入浴事業所

1. 訪問入浴・介護予防訪問入浴

介護保険の指定訪問入浴事業所として、看護職員や介護職員、オペレーターによって主治医の注意事項を守りながら、利用者の身体状況に応じた安全で快適な入浴サービスを提供した。利用者へのサービス回数が増加したこと、特に夏季の利用実績が上昇したことから、前年度比 17%の増収に繋がった。

(1)サービス内容

- ・ 血圧測定等の健康チェック
- ・ 衣類着脱介助
- ・ 浴槽への移動介助
- ・ 入浴介助

メリット

- 身体的負担が少ない
- 徹底した衛生管理
- 1チーム3名体制での手厚い介護
- 期待できるリハビリ効果



(利用者宅への浴槽搬入)



(チーム会議)

◇訪問入浴介護月別実績

(単位：件・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	9	10	12	11	13	12
収入額	672,450	714,560	814,090	971,030	931,480	1,034,830

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12	12	12	10	9	10	132
931,470	764,340	710,730	606,100	546,130	599,720	9,296,930

(前年度) 利用者人数(延べ) 128名 収入額 7,880千円

4. 輪内通所介護事業所

要支援・要介護状態となった場合でも、自立した日常生活を送ることができるよう、障がい者も含めて日常生活上の世話や機能訓練を行うとともに、引きこもり予防や社会参加および介護をしている家族の負担軽減を図るために通所介護を実施した。



1. 通所介護・介護予防通所介護事業 (介護保険)

《サービス内容》

- ・入浴サービス（特別機械浴、一人浴、一般浴）
- ・送迎サービス
- ・生活指導　健康チェック、レクリエーション、創作活動
運動器機能向上(個別機能訓練)サービス
- ・食事の提供

(月別実績)

◇通所介護(6月以降地域密着型通所介護)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用件数	23人	23人	22人	27人	35人	30人
収入額	¥1,563,100	¥1,665,700	¥1,639,840	¥2,032,710	¥2,340,870	¥2,541,300

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
31人	32人	36人	31人	31人	30人	351人
¥2,635,960	¥2,739,770	¥2,931,190	¥2,316,900	¥2,453,910	¥2,556,670	¥27,417,920

◇介護予防通所介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用件数	13人	12人	12人	13人	9人	12人
収入額	¥345,570	¥306,360	¥304,390	¥362,400	¥260,280	¥319,820

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
11人	8人	9人	7人	6人	6人	118人
¥283,980	¥220,510	¥223,800	¥162,300	¥183,270	¥162,300	¥3,134,980

◇障がい者通所介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用件数	3人	3人	3人	2人	3人	3人
収入額	¥156,730	¥149,610	¥142,480	¥121,110	¥121,110	¥121,110

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3人	3人	3人	3人	3人	3人	35人
¥121,110	¥128,240	¥142,490	¥135,370	¥121,110	¥142,490	¥1,602,960

(前年度)	利用者人数(述べ)	収入額
	通所介護	276名 18,433千円
	介護予防通所介護	110名 2,645千円
	障がい者通所介護	53名 2,549千円

2. 一次予防・二次予防事業の実施(受託事業)

尾鷲市から委託を受けて一次予防事業(にこにこ)として、市内在住で65歳以上の高齢者向けの介護予防に向けた取組が主体的に実施されるような地域社会の構築を目指し介護予防を実施し普及啓発に努めた。

二次予防事業(元気応援教室)として、要介護状態・要支援状態にはないが、そのおそれがある高齢者向けの要介護にならないことを目的とした通所型介護予防事業(運動器機能向上・うつ・閉じこもり・認知症予防を目的)の委託を受け、介護予防の実施および普及啓発に努めた。

(月別請求額)

【一次予防】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開催数	12	12	14	13	12	14
収入額	¥300,000	¥300,000	¥350,000	¥325,000	¥300,000	¥350,000
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12	13	11	12	10	15	150
¥300,000	¥325,000	¥275,000	¥300,000	¥250,000	¥375,000	¥3,750,000

【二次予防】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開催数	1			2	2	2
収入額	¥120,000			¥120,000	¥120,000	¥120,000
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
						7
						¥480,000

(前年度)	利用者人数(述べ)	収入額
一次予防	185名	3,350千円
二次予防	23名	1,020千円

尾鷲市から委託を受けている一次予防事業について、地域住民からの要望を受け、尾鷲市福祉保健課と協議の上、週3回実施し、安心して地域住民が住み慣れた我が地域で生活ができるよう、その一翼を担うことに繋げた通所介護事業の使命が達成できた。

5. 尾鷲通所介護事業所（デイサービスいきいき）

1. 通所介護・介護予防通所介護事業（介護保険）

(1) 通所介護・介護予防通所介護

介護に頼らない自立した生活を目指し、運動器の機能向上ための事業を実施。器具を使った個別の運動、器具を使わない集団による運動など積極的に取り組んだ。要介護者のサービスは、平成28年度より地域密着型通所介護事業に移行し、より地域に根差した事業所運営に努めた。また、職員の資質向上のための研修会に積極的に参加した。

① サービス内容

〈共通サービス〉

- 身体の介護・支援に関すること（排泄、移動など）
- 生きがい生活支援（レクリエーションなど）
- 送迎サービス
- 日常生活における相談・助言

〈選択的サービス〉

- 入浴サービス（通所介護）
- 個別機能訓練サービス（通所介護）
- 運動器機能向上サービス（介護予防通所介護）

◇地域密着型通所介護月別実績

（単位：件・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	27	26	23	23	21	20
収入額	910,140	840,090	794,160	783,360	713,780	734,650

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
21	22	20	22	20	20	265
683,160	695,950	694,150	684,220	633,550	777,980	8,945,190

（前年度） 利用者人数(延べ) 243名 収入額 8,952千円

◇介護予防通所介護月別実績

（単位：件・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	21	21	21	22	21	25
収入額	606,760	604,420	606,760	677,860	660,730	718,280

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25	17	17	18	18	21	247
720,620	513,230	510,890	565,480	566,340	678,720	7,430,090

（前年度） 利用者人数(延べ) 249名 収入額 6,331千円

◇介護予防・日常生活支援総合事業実績
年間利用人数 12 件 233,640 円

1. 一次予防・二次予防事業の実施（受託事業）

(1) 一次予防事業

尾鷲市から委託を受けて、市内在住で65才以上の人を対象に介護予防に対する啓発に努めるとともに、介護予防サービスを実施した。

(2) 二次予防事業

要介護状態・要支援状態にはないが、そのおそれがある高齢者向けのサービスや予防のための運動器機能向上に努めた。

(単位：件・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
一次予防	14	13	12	10	8	8
	350,000	326,600	391,200	250,800	200,000	202,000
二次予防	0	0	0	8	10	6
	0	0	0	240,000	300,000	180,000

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14	13	12	14	16	16	151
350,200	325,400	300,000	352,000	402,800	403,400	3,763,200
4	5	4	0	0	0	37
120,400	150,000	120,000	0	0	0	1,126,900

(前年度)	開催数	収入額
一次予防	147回	3,675千円
二次予防	69回	2,086千円



(新年交流会)

(3) 新年交流会の開催

日時：平成29年1月26日(火)

参加人数：いきいき利用者及びボランティアほか 77名

(要介護者、要支援者、一次予防・二次予防利用者ほか)

(4) 防災・防火訓練の実施

日時：平成28年6月4日(土)・平成29年3月29日(水)

内容：利用者の避難誘導及び避難経路の確認・防火訓練の実施
救急法・応急処置の実施

IV. 輪内高齢者サービスセンター

1. 輪内高齢者サービスセンター

1. 社会福祉協議会の分室機能

輪内地区の福祉の向上を図るため、次のような事業を行った。

- (1) 社協業務の受付窓口としての機能
 - ① 福祉相談窓口業務として相談を受け、市や介護保険関係事業所との連携を図った。
 - ② 輪内地区における募金事業の窓口として事業を推進した。
5月 日赤募金、10月 共同募金
- (2) 台風接近により高齢者サービスセンター避難所開設回数 無し
- (3) 施設の適正な管理・運営に努めた。

2. 輪内地区食の自立支援事業（市補助事業）

生活支援型配食サービスとして、週3回（火、木、土）、「食事を作ることが困難な高齢者」を対象に、食事内容の検討及び調理を行い各家庭へ配食した。

対象地区	輪内地域 (梶賀、曾根、賀田、古江、三木里、三木浦)
登録者数	33名
延べ配食数	4,471食
事業費	2,723,500円
(うち市補助分)	(935,100円)

地区別登録者内訳

(梶賀3、曾根4、賀田10、古江14、三木里2、三木浦0)

3. 輪内地区あったか弁当事業（自主事業）

平成21年度から、食事を作ることが困難で、市の配食サービスの対象とならない住民に対して自主事業としての配食サービスを実施した。曾根町、賀田町、古江町で年間171食の配食を行った。

